

半世紀の歴史をつなぎ、駅前広場の新たな顔となる増築計画

アトレ亀戸



増築により、駅前広場前面に建物が広がったアトレ亀戸



新旧部分を一体化した1階テナントスペースでは、照明計画によりにぎわい感を演出した



新旧部分や接続部分は内装仕上げを統一。手前に見えるエスカレーターは耐震改修を施した



増築部分にオストメイトも備えた多機能トイレを新設した

駅前広場に面した、新たなにぎわいが出現

JR 総武線亀戸駅の北口側に位置する商業施設「アトレ亀戸」が、2024年9月12日にリニューアルオープンした。北口のバスロータリーがある駅前広場に沿う形で増築部分を建設、内部を一体化した。増築部分のファサードは主としてガラスカーテンウォールを用いてイメージを刷新しつつ、一部に既存建物に合わせた特注のタイル張り仕上げを併用することで、歴史ある既存建物との連続性を持たせた。

アトレ亀戸の既存建物は地下2階・地上7階建て、延べ面積約3万3,000㎡という大きな施設だ。ただ立て込んだ立地にあり、駅前広場から全体像を見渡せなかった。今回の増築(地上8階建て、延べ面積約3,000㎡)により、駅前広場をL字に包む形の「顔出し」が実現。毎日立ち寄れる商業施設として、

人を呼び込む新たな動線が生まれた。

営業しながら既存建物も改修

建築基準法上、増築棟をどう位置付けるかによって、必要な設備は変わる。アトレ亀戸の増築計画では、別々の建物という扱いではなく、既存建物の床面積を増やす「1棟増築」を選択した。増築の場合、既存建物を全体的に現行の建築基準法に合わせて改修する必要がある。エレベーターには最新の安全装置や地震時管制運転装置・予備電源の設置などを実施。エスカレーターでは最新の落下防止措置を施し、最新基準に適合する安全性を確保した。また、増築部は既存部と階高を合わせ、段差のないフロアとした。これらの改修は、施設運営者との綿密なコミュニケーションと協働により、営業を止めずに実施した。

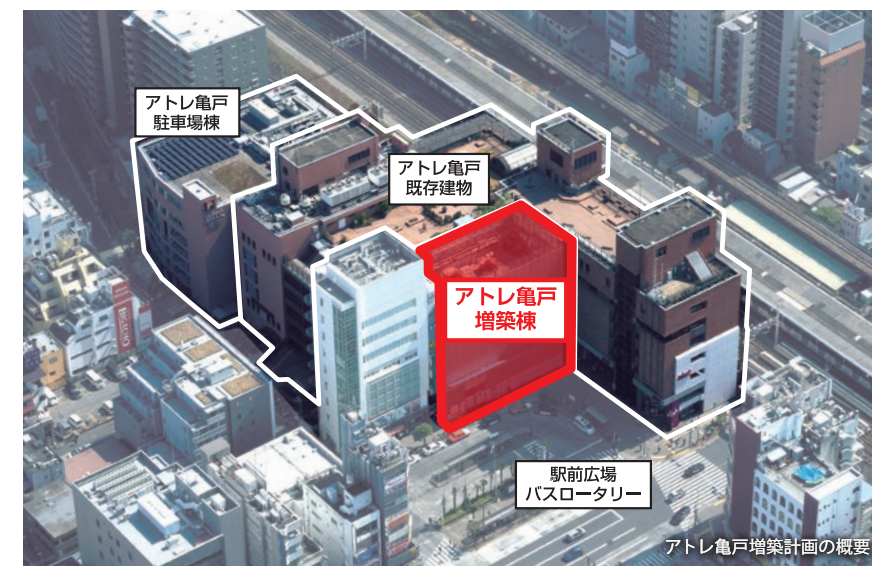
築46年の建物が最新商業施設に

リニューアルオープンしたアトレ亀戸は、1棟増築を選択したことで、特に利用者が多い駅直結の1階部分を連続した空間として扱うことが可能になった。照明計画によるにぎわい感の演出にも力を入れた。新旧部分やエキスパンションジョイント(接続部分)の床・壁・天井仕上げを統一することで、一体感を演出。既存部分を改修し、多機能トイレとベビー休憩室を新たに設置したことで、ホスピタリティも高まった。

1978年に「亀戸エルナード」として開業、2006年に「アトレ亀戸」と名前を変えながら、変わらぬ姿で使われ続けてきたタイル張りの施設は、最新の商業施設として生まれ変わった。

アトレ亀戸

所在地	東京都江東区
用途	商業施設
発注者	アトレ
施工	東急建設・東急リニューアルJV
敷地面積	8,924.17㎡
建築面積	5,306.78㎡(増築部: 435.82㎡)
延べ面積	35,994.41㎡(増築部: 2853.79㎡)
階数	地上7階、地下2階(既存棟) 地上8階(増築棟)
構造	S造・SRC(既存棟) S造(増築棟)
開業	2024年9月
統括	林田哲
建築担当	福田悦子、外西美香、砥綿孝子
構造	佐藤聖三、本山次郎
設備	田中大助
電気	池田庄弘、岡田翔太
発注支援	東小川朋之、金井昭彦
工事監理	林田哲、福田悦子、外西美香、砥綿孝子、佐藤聖三、本山次郎、森住和也、田中大助、池田庄弘



アトレ亀戸増築計画の概要

PROJECTS アトレ亀戸

当社HPでも同物件のご紹介をしております。ぜひ、ご覧ください。

